MITSUBISHI

0607871HN7802

ダクト用換気扇 〔浴室・トイレ・洗面所用〕(二部屋用)

形 名

VD-10ZFC6　VD-15ZFPC6
VD-13ZFC6　VD-17ZFC6
VD-15ZFC6　VD-18ZFPC6(二・三部屋用)

取付工事説明書

販売店・工事店さま用

取付工事を始める前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に取付けてください。

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

■取付工事、壁穴工事、電気工事はお買上げの販売店または専門の工事店さまが実施してください。
■この製品は、浴室・トイレ・洗面所・居間・事務所・店舗の天井に取付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因となります。
■この製品には市販の埋込スイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フード等は三菱換気送風機総合カタログにより別途ご用意ください。
■当社以外の電子式スイッチ(半導体制御による速調スイッチ・タイマー等)やホタルスイッチをご使用の場合は組合せ上、不具合の発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめ確認ください。
■接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の塩化ビニル管・アルミフレキシブルダクト・鋼板管のいずれかをご用意ください。

安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止	●**内釜式風呂を据付けた浴室には取付けない** 排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒をおこす原因。
	●**ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切をしない** 爆発や引火の原因。
水ぬれ禁止	●**製品を水につけたり、水をかけたりしない** ショート・感電の原因。
分解禁止	●**改造や必要以上の分解はしない** 火災・感電・けがの原因。
指示に従う	●**交流100 Vを使用する** 火災・感電の原因。
	●**メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取付ける** 漏電した場合発火の原因。
アース確認	●**湿気の多い場所ではアースを確実に取付ける** 故障や漏電のときに感電の原因。

⚠注意 誤った取扱いをしたとき、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止	●**浴室内に壁スイッチを設けない** 感電の原因。
	●**直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には取付けない** 火災の原因。
指示に従う	●**本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う** 落下によりけがの原因。
	●**部品の取付けは確実に行う** 落下によりけがの原因。
	●**取付けの際は必ず手袋を着用する** けがの原因。
	●**配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う** 接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。

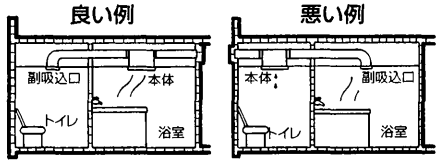
取付け前のお願い

取付け

●プラスチックボディタイプダクト用換気扇及びダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁 (特に消防署) にご相談ください。
●高温 (40℃以上) になるところに取付けないでください。
●温泉には取付けないでください。腐食 (落下)、漏電 (感電)、早期故障の原因となります。
●業務用24時間風呂のような常時湿気のある場所では寿命が短くなる場合があります。
●浴室などの湿気の多いところに取付ける場合は漏電ブレーカーを取付けてください。
●効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
●傾斜天井には取付けないでください。シャッター開閉不良、振動、異常音の原因となります。

取付場所

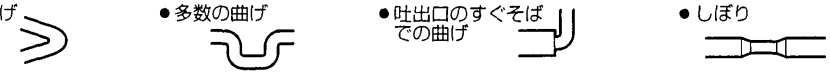
●浴室など湿気の多い場所では、グリルから水滴が落ちても不快にならない場所に取付けてください。
●浴室と他の部屋で使用する場合は本体を必ず浴室に取付けてください。本体から水滴が落ちることがあります。



天井・ダクト工事

●天井板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
●排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下り勾配をつけてください。
●排気ダクトの先端には、鳥などの侵入を防ぐためのベントキャップ、または雨水の浸入を防ぐための深形フード、外風が強いところでは耐外風フードなどのシステム部材を取付けてください。
●次のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因になります。

●極端な曲げ　●多数の曲げ　●吐出口のすぐそばでの曲げ　●しぼり

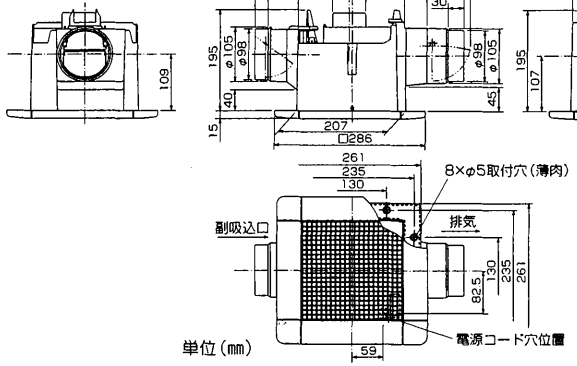


付属部品

	木ネジ (ステンレス製) (本体固定用)	木ネジ (副吸込口グリル固定用)	副吸込口グリル	カバープレート	風量調節板 (副吸込側)
VD-10ZFC6, 13ZFC6 VD-15ZFC6, 15ZFPC6, 17ZFC6	7本	4本	1個	−	−
VD-18ZFPC6	11本	8本	2個	1個	2個

外形寸法図

■VD-10ZFC6



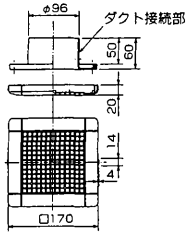
ダクト径

φ100mm

埋込寸法

□215mm
(野縁高さ40mm以下)

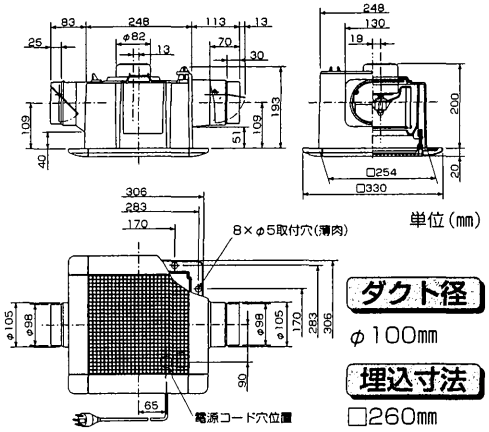
■副吸込口グリル(同梱品)



外形寸法図 つづき

■VD-13ZFC6
■VD-15ZFC6
■VD-15ZFPC6

※図はVD-15ZFPC6を示す。
VD-13ZFC6、15ZFC6には電源プラグはありません。

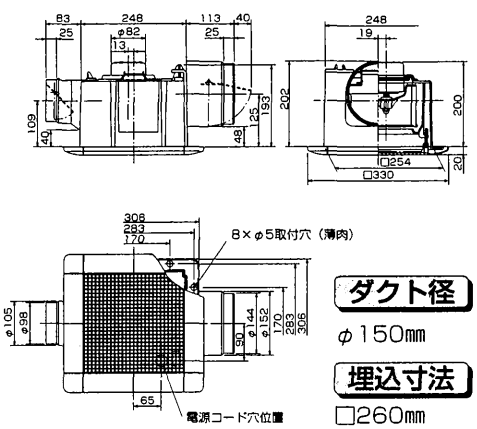


ダクト径
φ100mm

埋込寸法
□260mm
(野縁高さ40mm以下)

※VD-15ZFPC6は4芯3極接地形
(ビニルキャブタイヤケーブル有効長3m)

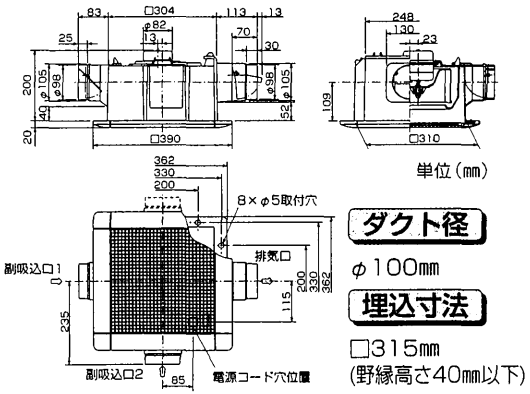
■VD-17ZFC6



ダクト径
φ150mm

埋込寸法
□260mm
(野縁高さ40mm以下)

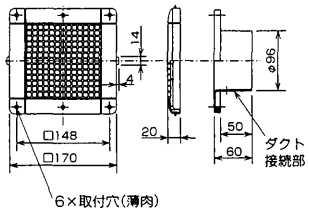
■VD-18ZFPC6



ダクト径
φ100mm

埋込寸法
□315mm
(野縁高さ40mm以下)

■副吸込口グリル(同梱品)



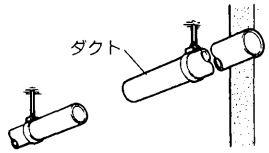
取付方法

※天吊金具を使用される場合は"天吊金具を使用する場合"をご覧ください。

取付手順例

1 ダクト工事 ⇨ 2 野縁工事 ⇨ 3 ダクト接続 ⇨ 4 本体の取付け ⇨ 5 電気工事 ⇨ 6 天井材を張る ⇨ 7 グリルの取付け

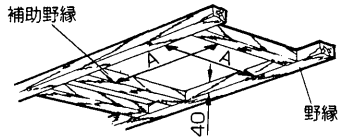
1 ダクト工事



壁排気穴から本体のダクト接続口および副吸込口位置までダクト配管する。

●ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊る。

2 野縁工事



タイプ	A寸法
VD-10ZFC6	215
VD-13ZFC6 VD-15タイプ VD-17ZFC6	260
VD-18ZFPC6	315

単位(mm)

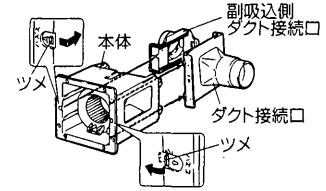
内寸がA寸法、高さが40mm以下になるよう天井の野縁と補助野縁で取付枠を組む。

メモ

●野縁高さを40mm以上で取付けると、シャッター開閉不良、異常音の原因となります。

3 ダクト接続

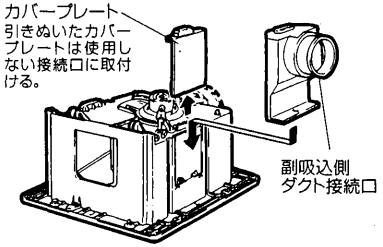
1



ダクト接続口と副吸込側ダクト接続口の取りはずし

(1)ダクト接続口は本体内側のツメを矢印の方向に押えながら図のように取りはずす。
(2)副吸込側ダクト接続口は、本体フランジ部の突起部を矢印の方向に押えながら図のように取りはずす。

2

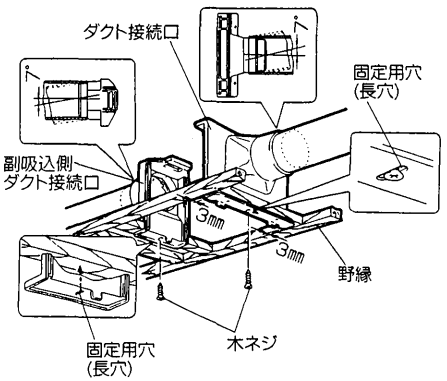


VD-10ZFC6以外の場合

建物および部屋の配置により、取付位置・排気方向・副吸込口方向・壁排気穴の位置決め

(1)副吸込口は3方向選択ができるため、使用する副吸込口方向を決める。
(2)カバープレートが取付けてある場合は、上に引きぬいて副吸込側ダクト接続口と交換して取付ける。
(3)VD-18ZFPC6を2部屋用で使用する場合は、使用しない接続口には付属のカバープレートを取付ける。

3



ダクト接続口と副吸込側ダクト接続口の仮固定

(1)ダクト接続口と副吸込側ダクト接続口をダクトに差し込む。
(2)ダクト接続口、副吸込側ダクト接続口のフランジ部を野縁に密着させて付属の木ネジ各1本で仮固定する。
(ダクト接続口側は両サイドに3mmほどのすき間があきます。
副吸込側ダクト接続口は、仮固定用穴を野縁の中央に合わせます。)

●仮固定するのは固定用穴(長穴)部分で移動できるためです。本体が取付けやすくなります。
●塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向7°)

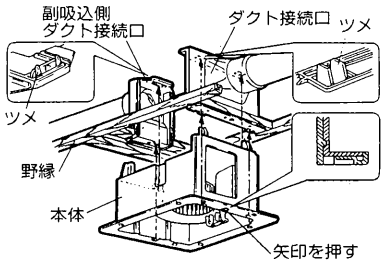
お願い

●ダクト接続を市販のネジなどで行う場合はシャッターの開閉に支障のないよう注意してください。

取付方法 つづき

4 本体の取付け

1



本体の差し込み

(1)副吸込口側を確認しながら、本体を野縁に差し込む。

(2)ダクト接続口とのはめ込みは、本体上部のツメをダクト接続口の角穴に、下部はダクト接続口の突起部を本体下部の角穴にはめ込む。

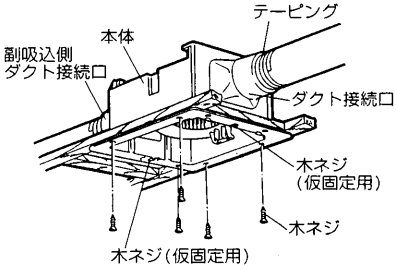
●本体フランジ部にある矢印付近を押すと「パチン」と音がしてはめ込まれます。

(3)副吸込側ダクト接続口の下部突起部を本体下部の角穴にはめ込む。

お願い

●羽根を持って本体の取付けを行わないでください。
（本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります）

2



本体の固定

(1)付属の木ネジ5本（VD-18ZFPC6は8本）で本体をすき間のないようにしっかり固定する。(すき間がありますと風漏れの原因になります)

●取付穴はすきま防止のため、薄肉がついていますのでネジ締付けの際、ネジ先端で薄肉部を突き破ってください。(VD-18ZFPC6を除く)

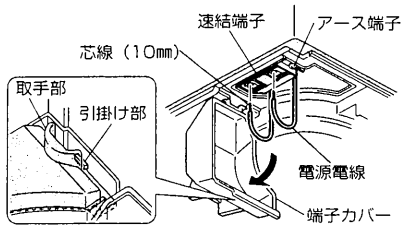
(2)ダクト接続口、副吸込側ダクト接続口を仮固定している木ネジ各1本を締め付ける。

(3)風漏れのないよう市販のアルミテープ等でダクト接続部をテーピングする。

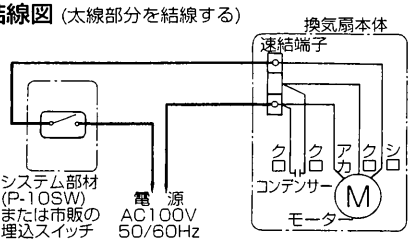
5 電気工事

1.本体上部のゴムブッシュより電源電線(屋内配線VVFケーブルφ1.6、φ2)を通す。
2.端子カバーの取手部に指を掛け、下に引いて端子カバーを開け、速結端子に皮むきした芯線を確実に奥まで差し込む。(結線図参照)
3.浴室など湿気の多いところで使用する場合は、アース端子を使用して必ずD種接地工事を行う。
4.端子カバーを元通り取付ける。
「パチン」と音がするまで押し込み、端子カバーが引掛け部に確実に固定されていることを確認する。

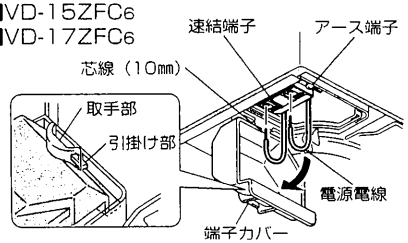
■VD-10ZFC6



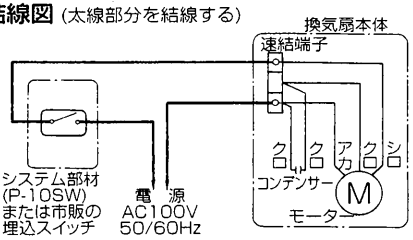
■結線図 (太線部分を結線する)



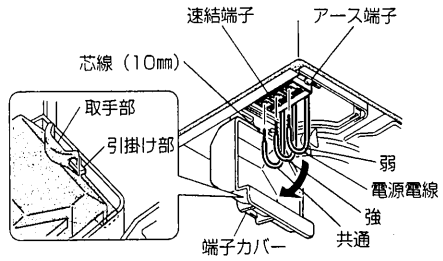
■VD-13ZFC6
■VD-15ZFC6
■VD-17ZFC6



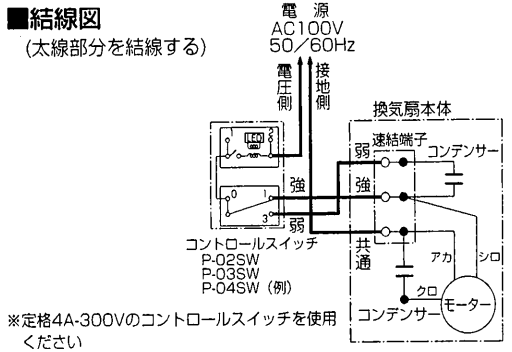
■結線図 (太線部分を結線する)



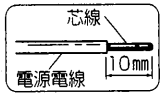
■VD-18ZFPC6



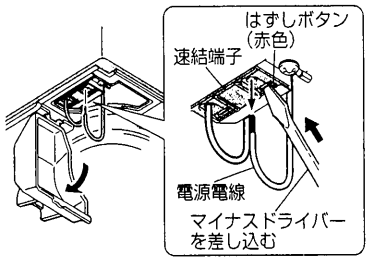
■結線図
(太線部分を結線する)



※定格4A-300Vのコントロールスイッチを使用ください



電源電線をはずす場合



お願い

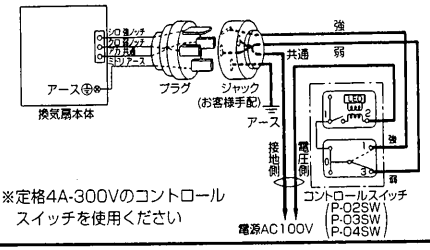
- **電源電線の外皮は 70 mm以上皮むきしてください。**
- **電線被ふくは 10 mm皮むきしてください。端子カバーに刻印されている皮むき寸法図に合わせて、皮むきすると便利です。(10 mm以上むくと漏電の原因になります)**
- **より線を結線する場合は、棒状圧着端子（市販品）をより線に取付けてから速結端子に確実に差し込んでください。**
- **電源電線は、接続部に力が加わらないよう本体付近で約 150 mmたるませてください。**
- **アース工事の際は、単線φ 1.6 またはより線 1.25 mm² をご使用ください。**
  (圧着工具は日本圧着端子製 YHT-2210 をご使用ください。)
- **電源電線を速結端子よりはずす場合は、マイナスドライバーで速結端子のはずしボタン（赤色）を押しながら電源電線を引っぱってはずしてください。**

VD-15ZFPC6の場合

●電源プラグと同形のコンセントを設けて差し込む。

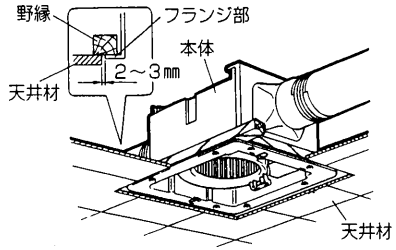
●電源コード先端には、3極接地形差込みプラグ(7A、125A、WF5415相当品）がついていますので同形のコンセントを取付ける。

■結線図 (太線部分を結線する)



※定格4A-300Vのコントロールスイッチを使用ください

6 天井材を張る



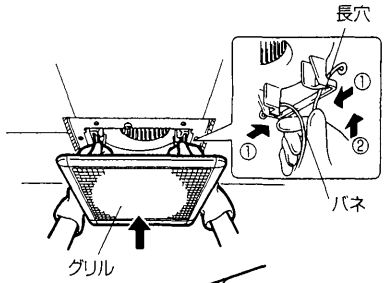
(1)天井材を張る。

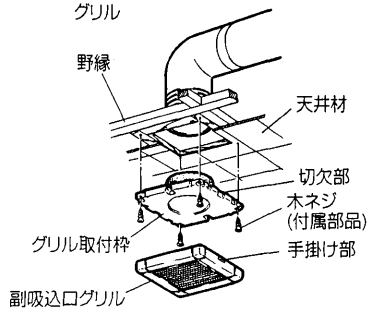
(2)本体のフランジ部分と天井材とは必ず2～3mmのすき間があくよう角穴をあける。

お願い

●天井材の厚さは 25 mm以下で施工してください。
（グリルが天井材に密着しない場合があります。）

7 グリルの取付け





本体側の場合

(1)グリルの2つのバネを両手で持ち、長穴に差し込む。
(2)手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。

副吸込口側の場合

(1)内寸120㎜角となるように野縁を組む。
(2)副吸込口グリルとグリル取付枠に分ける。
- フレキシブルダクトに差し込む場合は必ずテーピングしてください。(風漏れ防止)

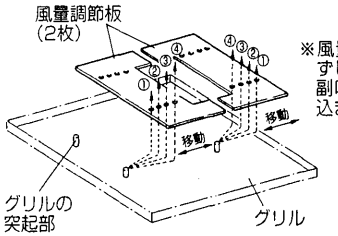
(3)付属の木ネジ(4本)でグリル取付枠を天井材に固定する。
- タイルの目地に合わせて取付ける場合、中央のネジ2本で固定します。

(4)副吸込口グリルの手掛け部とグリル取付枠の切欠部を合わせて上に押し上げ取付ける。

本体側と副吸込側の風量調節のしかた

本体側の場合 … (VD-10ZFC6以外)

- 本体の風量調節板を移動させることにより本体と副吸込側の風量割合を変更することができます。

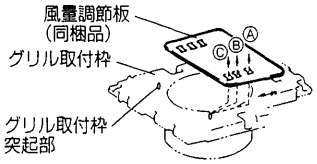


※風量調節板を取りはずしてしまいますと、副吸込口側から吸い込まなくなります。

穴位置	本体風量：副吸込風量 VD-18ZFPC6以外	本体風量割合 VD-18ZFPC6の場合
①	約1.5：1（工場出荷時）	45%（工場出荷時）
②	約2：1	50%
③	約2.5：1	55%
④	約3：1	−

副吸込側の場合 … (VD-18ZFPC6)

- 工場出荷時本体と2か所の副吸込風量割合は約1.5：1：1となっています。
- 風量調節板を使用することにより副吸込風量を全開時の75%・50%・30%に調整することができます。



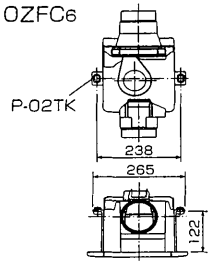
穴位置	副吸込風量割合
Ⓐ	75%
Ⓑ	50%
Ⓒ	30%

天吊金具を使用する場合

野縁に強度がない場合は天吊金具を使用して取付ける方法も兼用してください。

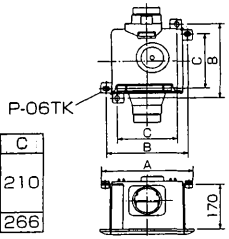
1 下図の位置にあらかじめ市販の吊りボルト(M8)を埋め込む。

■VD-10ZFC6



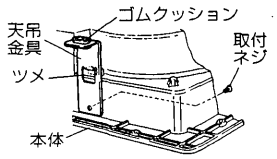
単位(㎜)

■VD-13ZFC6
■VD-15タイプ
■VD-17ZFC6
■VD-18ZFPC6

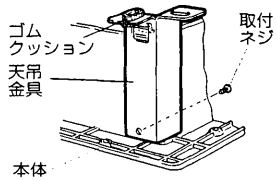


タイプ	A	B	C
VD-13ZFC6 VD-15タイプ VD-17ZFC6	320	285	210
VD-18ZFPC6	376	341	266

2 P-02TKの場合



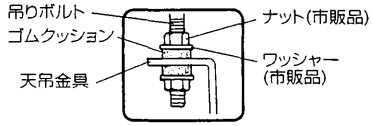
P-06TKの場合



システム部材の天吊金具のツメを本体に引っ掛けて、内側から取付ネジで固定する。

お願い
- **P-06TKの場合、必ずダクト接続口を先に取付けてから天吊金具を取付けてください。逆の場合はダクト接続口が取付けられません。**

3



本体が水平になるように天吊金具を吊りボルトに取付け、ナットがゆるまないようワッシャー・ナットにて確実に固定する。

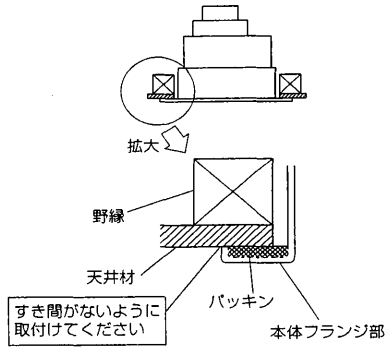
天井材の下に本体フランジを取付ける場合

お願い

本体の取付けは天井材と本体フランジ部との間にすき間がないように取付けてください。
(天井材と本体フランジ部が密着しないと天井面とグリルの間にすき間が生じる場合があります)

■パッキン材を使用する場合
- 天井材と本体フランジ部の間にパッキン材を使用する場合は薄いもの・軟らかいものを使用し、取付状態ですき間がないようにしてください。

■補強板を使用する場合
- ユニットバスに設置する場合などで、天井面と本体フランジ部との間に補強板を入れる場合には、その部分の厚さが1㎜以下のものをご使用ください。



試運転

取付工事が終わりましたら次の確認をしてください。

1. コントロールスイッチにて正常な運転ができますか？
2. 振動・異常音はありませんか？

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508−8666 岐阜県中津川市駒場町１番３号　電話 0573−66−2111

この説明書は、再生紙を使用しています。